



営農NEWS



秋冬ハクサイにおけるアブラムシ類やべと病、 黒斑病の被害発生に十分注意しましょう

秋冬ハクサイの生育は、多くが結球期中～後期をむかえ、今後は出荷の作業が忙しくなる時期となります。

なお、病害虫発生予報 11 月号（県病害虫防除所）によりますと、10 月下旬現在、秋冬ハクサイにおけるアブラムシ類の発生は平年より多く、また、べと病は平年並～やや多い状況とのことです。

秋冬ハクサイに寄生するアブラムシ類としては、モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ダイコンアブラムシなどがありますが、主体はモモアカアブラムシとニセダイコンアブラムシと考えられます。

収穫期近くになっても、これらアブラムシ類やべと病、黒斑病などが多発生しますと、品質の低下や減収を招く恐れがありますので、圃場の発生状況をよく観察して、発生に応じて防除に努めてください。

<アブラムシ類防除対策のポイント>

- 近年、アブラナ科葉菜類の殺虫剤防除が、ジアミド系剤（プレバソン、フェニックスなど）やマクロライド系剤（アフーム、アニキなど）、プレオ、アクセルなどが中心になっています。これらの薬剤はチョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アオムシ、ヨトウムシ、コナガ、ハイマダラノメイガなど）に登録があって、高い効果を発揮します。しかし、（カメムシ）目が異なるアブラムシ類には登録がなく、効果が期待できませんので、必要（発生）に応じてアブラムシ類に効果のある薬剤で防除する必要があります。
- 寄生が結球内部まですすむと、防除が難しくなりますので、早めに薬剤散布を行いましょ。薬剤散布は、ハクサイの収穫前日数に十分注意し、薬液が十分かかるように丁寧に行ってください。

表 1 ハクサイ アブラムシ類の主な防除薬剤（平成 28 年 11 月 15 日現在）

薬剤名（主な系統名）	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ウララDF（－）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
アグロスリン水和剤（ピレスロイド）	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
スタークル顆粒水溶剤（ネオニコチノイド）	2,000～3,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
コルト顆粒水和剤（－）	4,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
アドマイヤーフロアブル（ネオニコチノイド）	4,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
トレボン乳剤（ピレスロイド）	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
パダンSG水溶剤（ネライストキシン）	1,500 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
ハチハチフロアブル（－）	1,000～2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内

<べと病、黒斑病など防除のポイント>

- 多湿な圃場環境は、発病を助長しますので、排水対策など改善に努めてください。
- 薬剤散布にあたっては、株元や下葉、葉裏にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布することが重要です。
- 防除薬剤は、下記を参考にハクサイの収穫前日数に十分注意してください。

表 2 ハクサイべと病、白斑病、黒斑病の主な防除薬剤（平成 28 年 11 月 15 日現在）

薬剤名	べと病	白斑病	黒斑病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アフエットフロアブル		○	○	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ストロビーフロアブル	○	○	○	3,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
ランマンフロアブル	○			2,000 倍	収穫 3 日前まで / 4 回以内
ジャストフィットフロアブル	○			5,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
ダコニール 1000	○	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
プロポーズ顆粒水和剤	○	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
オーソサイド水和剤 80		○	○	600～1,200 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
	○			600 倍	
ホライズンドライフロアブル	○			2,500～5,000 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内
ロブラール水和剤		○	○	1,000～1,500 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA全農いばらき

生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040